

宮城県名取市に、わかめ加工と種苗^{しゅびょう}の生産・研究拠点「ゆりあげファクトリー」を開設
～海藻養殖の生産安定化にむけて～

理研ビタミン株式会社（本社：東京都千代田区、社長：山木一彦）の連結子会社である理研食品株式会社（本社工場：宮城県多賀城市、社長：渡辺博信）は、宮城県名取市の閑上^{ゆりあげ}地区に、わかめの加工及び種苗生産や海藻の基礎研究を行う「ゆりあげファクトリー」を開設し、7月1日より稼働いたします。「ゆりあげファクトリー」は、東日本大震災において甚大な被害を受けた閑上地区の復興と地域水産業の活性化を目的とした名取市の水産業共同利用施設復興整備事業です。



「ゆりあげファクトリー」外観イメージ図

開設の背景

近年のわかめ産業を取り巻く課題として、①気候変動による生産量低下、②生産者の方々の高齢化、③寒冷期の苛酷な労働条件での作業負荷などが挙げられます。特に水温が不安定な年は、海上での養殖初期段階で「芽落ち^{めおち}」と呼ばれる生長不良が起こり、わかめ生産量低下の原因のひとつとなっています。

ゆりあげファクトリー開設の目的

こうした環境下、理研食品は「わかめの苗」ともいえる種苗の優良系統を選抜するために養殖水槽を開発し、それを用いて高生長種苗、早生^{わせ}・晩成種苗^{おくて}などの選抜技術開発（注1）に取り組み、一定の成果が得られました。この度「ゆりあげファクトリー」でその実用化をスタートさせます。

これら優良種苗の安定生産により、その後の海上におけるわかめ養殖の生産性が向上すると期待できます。また「早生種苗」や「晩成種苗」の系統を選抜する事で、これまで1回/年だったわかめの養殖を、将来的には2回/年に増やすことも研究しております。

わかめ養殖の安定生産及び労働の軽減化など、海藻産業が抱える課題について、研究開発の視点から多面的に提案を行い、海藻産業の活性化に貢献してまいります。また、わかめ製品の前処理加工生産や海藻の基礎研究もスタートさせ地域の発展に繋げてまいります。

ご参考 ～ゆりあげファクトリー設立時における主な研究成果～

①優良系統を選抜するための浮遊回転式養殖水槽

(C F C S水槽：

Circulation and Floating Cultivation System) (注2)

②わかめの高生長種苗の選抜

③早生・晩成種苗の選抜の研究

④種苗育成の最適条件の絞り込みの研究



C F C S水槽

※①③は東北マリンサイエンス拠点形成事業（新たな産業の創成につながる技術開発）(注3)の一環として、国立研究開発法人理化学研究所との共同研究。

※④についてはパナソニック株式会社のシミュレーション解析技術を活用した共同研究。

注1：優良系統の選抜、いわゆる「遺伝子組み換え」ではありません。

注2：C F C S水槽：海のわかめ養殖漁場と同じ速さの流れを再現できる水槽

(特許第6024879号：理研食品株式会社、岩手県、国立研究開発法人理化学研究所による共同出願)。

注3：東日本大震災からの東北地方の漁場の回復及び沿岸地域の産業の復興を目指す、文部科学省による研究開発テーマの公募。

ゆりあげファクトリー概要

| | |
|------------------------|---|
| 所在地 | 宮城県名取市閑上四丁目 479 |
| 事業内容 | わかめ、茎わかめの加工（湯通し塩蔵わかめの芯抜きなど） わかめをはじめとする海藻類種苗生産 海藻の基礎研究プラント |
| 工場面積 | 建屋面積 522 m ² 敷地面積 2,000 m ² |
| 総事業費 | 184 百万円 |
| 稼働開始日 | 2017 年 7 月 1 日 |
| 生産品種と生産能力 (5 年以内目標) | わかめ、茎わかめ加工品：湯通し塩蔵品として 200 t わかめ優良系統の種苗生産(高生長種苗、早生・晩成種苗など) ：3 万mの種苗生産(養殖育成後のわかめ原藻換算で約 2 千 t) |
| 従業員数 | 竣工時 4 名 |

以上

リリースに関するお問い合わせは

理研ビタミン株式会社
経営企画部 広報・IR室
TEL 03-5275-5835